

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191800166		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・草加青柳		
所在地	埼玉県草加市青柳6-26-6		
自己評価作成日	平成 28年 10月 18日	評価結果市町村受理日	平成28年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 28年 11月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的で温かいグループホーム」を目標に職員一同、日々努力している。生活リハビリとして洗濯物を干したり、たたんで収納したり、食後の食器を拭いたりと日常生活の中で無理のない範囲で楽しそうにされている。また、皆様が昼食を作ったり、出前のお寿司をテラスで召し上がる事もある。レクレーションとしてはご家族に月に2回習字を教えて頂いたり、プランターに季節の花や野菜を植えたりという行っている。地域の皆様との交流も大切にし、行事にも参加している。避難訓練は火災と水害の両方を定期的に行い、落ち着いて避難出来る様、心がけている。ご家族とも、家族会の他、面会に来られた時に日常の様子をお伝えし、今後の支援についてのご意向をお伺いし、ご希望に添った支援が出来る様、職員会議やフロア会議等で相談し、決まった事を実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな郊外に立地している、平屋建てのホームである。リビングは天井吹き抜けで、明るく、ゆったりとしている。事業所は、「家庭的で温かいホームづくり」を目指し、常に、自分の家のように暮らしていただけるように努めている。例えば、おやつ作り、洗濯物を干す、たたむ、食事の手伝いなどを職員と一緒に楽しみながら、行っている。また、職員は、主婦が多く、職員同士のコミュニケーションが良く取れていて、相談しながら、日々の支援やケアに当たっている。また、医療との連携は、系列の医療機関と提携していて、月2回の往診に加え、24時間オンコール体制を敷いている。訪問歯科も月2回、訪問看護は毎週来訪していて、医療との連携が密で安心の体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が理念の「家庭的で温かいグループホーム」を共有し、ご利用者様が自分の家の様に過ごして頂ける様、日々努力している。	法人の理念の他に事業所の理念を独自に作っている。「家庭的で温かいグループホーム」を合言葉に、一緒に食事の準備をしたり、一緒におやつを作ったり、在宅と同じように暮らせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店で買い物をしたり、散歩の途中で話をされている。地域の行事にも参加されたり、地域の一員として日常的に交流している。	オープンして、4年半が過ぎ、事業所のオーナーをはじめ、地域の方には納涼祭などの行事や自治会活動で協力頂いている。また、書道や唄と踊り、傾聴等のボランティアも活発である。小学生の社会科見学もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今迄の認知症ケアの経験を通し、認知症の方について理解して頂くとともに、支援の方法もお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ご家族様・地域包括支援センターの方・民生委員様にご参加頂き、サービスの評価について話し合い、皆様のご意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回定期開催している。家族をはじめ、地域包括支援センター、民生委員、事業所の職員が出席している。行事の相談や水害対策等活発に意見交換している。市の指導で、水害対策マニュアルも作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方や、市町村担当者様に実情や取組みを伝え、協力関係を築いている。空室所状況の問い合わせもあり、入居者様も紹介して頂いている。	比較的軽い要件でも、市の窓口に出向いて相談している。また、2か月に1回開かれる、草加市グループホーム交流会にも、市の職員ともども参加して、意見交換や協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回「身体拘束委員会」を開催し、「禁止の対象となる具体的な行為」を学び、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として定期的に勉強会がある。事業所も独自に月1回「身体拘束委員会」を開いて、何が拘束に当たるのかなどキメ細かく研修している。また、日々のケアの中でも、気が付けば、個別に、注意したり、お互いに確認し合ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回「虐待防止」の勉強会を行い、皆で気付いた事について話し合うとともに、随時対策を考え、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員を中心に勉強会を行っている。今のところ、該当される方は居られない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書の内容について納得される迄説明し、署名・捺印して頂いている。また解約や改訂の際も十分な説明を行い、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議や家族会で意見をお聞きしたり、来訪時にも意見をお聞きし、運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、電話連絡時などを使って、家族から、意見や要望をくみ取っている。また、月1回の「ひとこと通信」を発信して、入居者の日常の様子や健康状態をお知らせし、要望なども伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で意見や提案を聞き、皆で話し合い、運営に反映させている。また気付いた事はその都度聞き、運営に反映させている。	月1回の全体会議やフロア会議などで、環境改善、身体拘束など、さまざまな意見が出され、日々のケアに反映させている。また、法人のエリア会議などもあり、他の事業所の良い点など学んできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社と連携を取り、職場環境・条件の整備に努め職員一人ひとりが向上心を持って、働ける様、より良い環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会を設け、ケアの向上を図るとともに、日常生活の中でご利用者様に寄り添った介護が出来る様、日々努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの交流会等に参加し、意見交換や勉強会を行うとともに、他の施設訪問で参考になった事を取り入れ、サービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺った時に話を聞かせて頂き、入居されてからも安心して生活される関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時にご家族と話し合い、ご家族の気持ちに出来るだけ寄り添える様、配慮しながら、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話の中から、まず必要な支援を見極め、サービスを提供する様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等、出来る事は職員が一緒になって行い、自分の家で過ごしている様に生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご意向に添い、ご本人と良好な関係を保ち、ともにご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人が大切にしてこられた友人に面会に来て頂いたり、馴染みの店に買い物や食事に行く等、支援している。	家族のみならず、少し遠方の親戚や友人も時々来訪している。家族が面会に来た時は、一緒に外出して、食事や買い物を楽しんでいる。また、馴染みの美容室に行ったり、馴染みのレストランや寿司屋に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に1人で閉じこもってしまわれない様、その時に合った環境作りをし、お互いに関わり、支え合える様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも、ご家族が訪ねて来られたり、電話で相談される事もあり、グループホームで生活されていた時と同様に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様1人ひとりの気持ちに添ったケアが出来る様、努めているが、ご本人からご希望やご意向を伺えない場合には職員とご家族で話し合い、ご本人本位に検討している。	入居時に、本人の生活歴や趣味、嗜好、暮らし方の希望など詳細に聞き取り、ケアプランを作成している。また、入居後も、日々の生活の中で願いや希望を聞いている。困難な場合も仕草や表情から判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在までの生活歴を伺い、どの様な暮らし方をされ、サービスを受けて来られたかを把握する様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題とケアについて話し合い、介護計画を立て、実施後、3ヶ月と6ヶ月にモニタリングを行い、アセスメント・サービス担当者会議の内容を反映させた介護計画を作成している。	月1回のフロア会議でカンファレンスを行っている。職員みんなの意見を参考に、利用者の状態に応じて、ケアプランを変更している。また、家族の意見なども書面でいただき、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に日々の様子等を記録し、情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合ったサービスが出来る様、ニーズを把握し、柔軟な支援や多機能化を目指し、実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の施設を利用したり、ボランティアさんに参加して頂きイベントを開催する等、ご本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医による往診を通し、ご家族の希望に添える様、努めるとともに適切な医療を受けられる様、支援している。	系列の提携診療機関があり、月2回の集団、個人検診があり、24時間オンコール体制を敷いている。近くのクリニックとも提携して、随時対応いただいている。また、訪問歯科は月2回、訪問看護は毎週来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で気付いた事をクリニックや医療連携の看護師に伝えて相談し、必要に応じて適切な受診や看護を受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院された時には少なくとも週に1回はお見舞いに行き、医師・看護師・相談員と連携し、早期退院に繋がる様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用様の様子を観ながら重度化される前から、終末期について往診時にご家族も一緒に話し合い、ご希望に添える様努めている。終末期に向けた事業所の方針もお伝えしている。	指針があり、入居時に、細かく説明し同意を得ている。重度化してきたら、事業所、家族、かかりつけ医と連携を密にして、最期をどこで迎えるかを常に相談しながら進めている。なお、未だ、看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用様の急変や事故発生時の対応について初期対応ができる様研修を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼・夜を想定し訓練を行い、非常時に対応できる方法を身につけている。近隣の方の協力体制も築いている。ハザードマップも準備し、避難場所の確認もしている。	年2回の避難訓練を行っている。うち1回は夜間想定で行い、消防署員の立ち会いもある。また、隣接の系列有料老人ホームと合同で実施している。備蓄品も、水、パン、お菓子など3日分、ヘルメットも常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を受けた職員が中心になり、ご利用者様1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来る様話し合い、実行している。	個人情報については、書類は、鍵のかかるロッカーで保管し、パソコンは、パスワード管理となっている。また、接遇研修を行い、トイレ誘導や入浴に関しても、個人を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から思いや希望が汲み取れる様努めるとともに、自己決定できる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちを優先し、その日をどの様に過ごしたいか希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った身だしなみや、ご希望に添ったおしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来る様、食事前にメニューの説明をしたり、ご希望がある時には個別に対応する事もある。また食後の片付けは職員と一緒にして頂いている。	食材は、外部業者から調達し、メニューやカロリー計算もできている。できる人は、テーブル拭きや盛り付けなど一緒に行っている。夏はソーメン、お正月は、おせち料理などの季節を感じる食事が喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表を作り、主食・副食・水分量を記録し、必要な量が摂取できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひと一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。また週に1回歯科衛生士の指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレに行かれる様支援している。不可能な時はトイレを使用して頂く等、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作成して、それを基本にトイレ誘導している。声掛けも「ちょっと行きましょう」などと、配慮している。夜間は、熟睡している人は、無理に起こさず、ポータブルトイレなども活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や運動を行い、出来るだけ薬に頼らない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望を聞き、曜日や時間にとらわれず、臨機応変にその方の気持ちに添って入浴して頂いている。ゆずや菖蒲等を入れ楽しんで頂いている。	入浴時間帯も人数も特に決めておらず、その日によって、利用者の意向に添って、行っている。入浴嫌いな人も「ちょっとお願いします。」と声掛けし、入浴を促している。また、しょうぶ湯やゆず湯も好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣や状況に応じて自由に休んで頂いている。また安心して入眠される様温度等、環境作りにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み理解し、日々の変化を見逃さず、医師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割分担をし、実行していただいている。また趣味を活かした作品作りもされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望を聞き、天気のよい暖かい日には散歩をされている。またご希望に添って買い物支援をしたり、地域の店で外食をされることもある。	天気の良い日は、近所を散歩して、近隣の住人と交流している。近くのドラッグストアでの買い物も楽しみのひとつである。個別に見たい物、行きたい所があれば、タクシーを呼び同行している。家族が来れば、一緒に食事や買い物を楽しんでいる。	日常的な個別外出支援も行っているが、外出できない人も増えてきている。個々のレベルに合わせて外気浴をしたり、室内でも、皆で楽しめる全員参加型のイベントを開催をする等、気分転換の機会を作ることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行かれた時にはご自分で支払いされる方もあり、一人ひとりに応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や郵便物のやりとりは自由にしてい頂ける様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く事のない様、共用部分の環境を整え、気持ち良く過ごされる様配慮している。また季節に応じてご利用者様にも参加して頂き掲示物も変えている。	冷暖房、加湿器、空気清浄器などが備え付けられていて、事務室で常時コントロールしている。リビングは、天井が吹き抜けで明るく、平屋建てなので広々としている。壁には、利用者が書いた習字や、職員とともに作った、季節の飾り物がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで皆様と過ごされたり、一人で休まれたり出来る場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族と相談しながら居室には使い慣れた物を置いて頂き、ご自分の家と同じ様に生活されている。畳の生活の方も居られ、夜は布団を敷いてお休みになっている。	エアコン、クローゼット、ベッド、洗面台、チェストタンス、防災カーテン、照明は備え付けられている。その他は、在宅の延長で、使い慣れたもの、趣味のもの等、何でも持ち込んでいただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のない様、障害物をなくし、安全な環境作りをしている。また一人ひとりの出来る事を活かし、自立した生活を目指し支援している。		